



大 空 (たいくう)

目指すは「条治を超えろ！！」

校長 齋藤和哉

4月9日に始業式、入学式があり、学校が始まって2週間ほど経ちましたが、学年・学級の運営、部活動の勧誘・入部、PTAや同窓会関係の諸会議など、年度始めのさまざまな事業が概ね円滑に進んでおります。生徒たちが朝早くから登校して、早朝トレーニングや朝学習に向かっている様子を見ると、本当に勢いのある学校だなと感じているところです。今年度で普通科は全ての学年が4学級となり、体育科の2学級と合わせて学年6学級編成で平成30年度がスタートしました。始業式では、今年2月に韓国ピョンチャンであった冬季オリンピックを話題にして、新しい学年の始まりにあたって私から生徒に激励をしました。



ピョンチャンオリンピックでは、日本代表の選手たちが最高のパフォーマンスを発揮し、13個のメダル(金4、銀5、銅4)を獲得して過去最高の成績をあげました。山形県からも6名の選手が出場、うち5名は本校の卒業生でありました。メダルには届かなかったものの、スピードスケート競技に出場した4名のOB全員が入賞しました。そこで、偉大な先輩である加藤条治選手を引き合いにチャレンジすることの大切さを説きました。高校3年生のときにインターハイ3連覇を達成、高校生として初めてワールドカップにも出場して注目を浴び、世界記録保持者としてオリンピックに出場し、金メダルを期待されながら6位に終わった最初のトリノオリンピック、その後スランプに陥り苦しい時期もありましたが、2回目のバンクーバーオリンピックでは見事復活して銅メダルを獲得、そして3回目のソチオリンピックではメダルを期待されながら5位でした。その後所属先を変えて、敢えて厳しい環境に身を置き、苦しい自分と向き合いながら臨んだ4度目のピョンチャンオリンピックでは6位入賞でした。確かにメダルは取れなかったが、30歳を過ぎてもお、自己の可能性を信じて挑戦し続けたのは大したものです。15年間もモチベーションを保ち、世界の舞台で戦い続けることは並の努力では到底できないことです。

4年に1度しかないオリンピック、ここで勝利するのは極めて難しい。まさに「巡り合わせ」ともいえる。やっと出場を決めても、その日その時に最高のパフォーマンスを発揮できた者しか勝利できないのがオリンピックです。努力することは大事なことだが、努力したからといって必ず勝てるとは限らない。すなわち、日本一の努力をしたから日本一にはなれない、世界一の努力をしたからといって世界一にはなれない所以です。それでも努力しなかったら勝利は巡ってこないのも事実です。

今回のメダリストをはじめ、活躍したトップ選手たちに共通しているのは、「自分を敢えて厳しい環境に置いている」ということ。世界一を目指しているのだから当然とはいえ、これができるかどうか、「自分を高められるかどうかの分かれ目」であります。なぜならその挑戦は相当な覚悟と苦しみが伴うからです。それでも、他人からさせられるのではなく、自分で自分に課す苦しみは喜びにも変えられる……。加藤条治選手が15年間も、日の丸を背負ってひたむきに努力してきたことは、メダル以上に価値のある素晴らしいことです……。

生徒たちには「君たちにそんな偉大な先輩がいることを誇りにしてください」と伝え、「学習・進路、部活動等で、自分の夢の実現のため、目標達成に向けて果敢にチャレンジしてほしい」と激励しました。そして、決意と覚悟を持って本校に入学してきたことをもう一度思い起こし、「自分は何をすべきか、どこを目指すのか」今一度、自分の目標を明確にして、さらなる「高みを目指して」突き進んでほしい、目指すは「条治を超えろ！！」だと伝えました。3年間の高校生活は長いようで非常に短い。無為に過ごせば何も得ることなく過ごすこととなります。「学校は自分を変えるためにある」明確な目標を持って高校生活を送れば必ず自分を変えることができます。山形中央高校はそれを可能にしてくれる学校です。

平成29年度卒業生の進路状況（30年3月末）

普通科センター試験受験率・5教科受験率 98%超 国公立大学合格者 66名〔うち推薦入試合格者23名〕 民間企業は好調、公務員は今年も狭き門

今春卒業した平成29年度3年生の進路状況は下表の通りです。普通科93.8%、体育科82.3%の生徒が大学・短大・専修学校へ進学し、普通科0.5%、体育科16.5%の生徒が就職を決めました。

今回の入試で特筆すべきことは、普通科において在籍の実に**98%を超える生徒がセンター試験を受験**し、しかも受験した生徒の**98%超が5教科全てを受験**したことです。これは本校始まって以来の高い割合であり、県内他校と比較してもトップレベルにあるものでした。センター試験受験に向けて最後まで学習をすることは、『**高校での学びの集大成**』として、『**大学等での学びにつなげる学力保障**』として非常に大切なことと考えます。また、受験に向けて『**戦う集団**』として一致団結した雰囲気も醸成されていたようです。このようなことから、今後も普通科においてはセンター試験を極力受験することが望ましいと考えております。

4年制大学：189名（卒業生数の69.0%）が4年制大学へ進学しています。国公立大学には**66名（体育3名を含む）**が合格を勝ちとり**58名**が進学しました。特に、推薦入試では**23名**もの合格者を出し、昨年度に続き多くの合格者を出すことができました。推薦入試・一般入試共に生徒の頑張りや保護者の方々の支えが実を結んだものであり、後輩達にとっても心強い結果となりました。**131名**が進学した私立大学での学部傾向を見ますと、法・経済学部などの社会科学系や、全国的に人気が高い生活科学系に多くの進学者を出しています。

主な国公立大学進学先 山形大22名、県立保健医療大5名、福島大3名、筑波大2名、新潟大7名

短期大学：近年、短期大学への志願者が減少傾向にありますが、**15名**が短期大学へ進学しました。県立米沢女子短期大学が8名、その他は多くが幼児教育を目指す私立短期大学への進学となっています。

看護医療・専門学校等・大学校職業訓練校：男女を問わず人気の高い看護・医療系の専門学校を含め、専修・専門学校への進学者は**44名**（16.1%）です。看護医療系の主な進学先としては、国立病院機構山形病院附属看護学校、済生館高等看護学院、山形医療技術専門学校などに複数名が進学しました。大学校等の職業訓練校には**5名**が進学しています。

就職：民間企業へ**8名**、公務員に**6名**。公務員では全県的に厳しい状況の中で、山形県警、宮城県警などに6名が合格しました。また、少し上向きの就職戦線となっていますが、民間企業へ8名が就職し、希望者の就業率は**100%**となっています。

本校進路指導部としては、自らの進路希望を達成した卒業生に拍手を送ると共に、さらなる中央高生の進路実現のために邁進していきたく思っております。つきましては、本校進路指導に対する保護者の皆様、関係各位の皆様の今後益々のご理解、ご協力をお願いしたいと存じます。

（進路指導部長 芦野 浩二）

平成29年度（平成30年3月）卒業生進路概況

（3月31日現在）

	大 学			短期大学			看護 医療 専	専 門 ・ 各 種	大 学 校 職 訓	就 職			予 備 校	そ の 他	計	
	国 公 立	私 立	計	国 公 立	私 立	計				企 業	公 務 員	計				
普通科	男子	38	43	81	0	0	0	2	5	2	0	1	1	3	6	100
	女子	17	47	64	5	8	13	8	6	2	0	0	0	0	2	95
	合計	55	90	145	5	8	13	10	11	4	0	1	1	3	8	195
体育科	男子	2	34	36	0	0	0	8	7	1	7	3	10	0	1	63
	女子	1	7	8	0	2	2	3	0	0	1	2	3	0	0	16
	合計	3	41	44	0	2	2	11	7	1	8	5	13	0	1	79
学 年	男子	40	77	117	0	0	0	10	12	3	7	4	11	3	7	163
	女子	18	54	72	5	10	15	11	6	2	1	2	3	0	2	111
	合計	58	131	189	5	10	15	21	18	5	8	6	14	3	9	274
	割合%	21.2	47.8	69.0	1.8	3.6	5.5	7.7	6.6	1.8	2.9	2.2	5.1	1.1	3.3	